

「さんべまるごと体験！」

1 趣 旨

- ・地域資源を活かした体験活動の場を提供することで、三瓶地域の魅力に気づく。
- ・交流の家周辺で活動することで家族の絆を深めることや時間を守るなどの基本的な生活習慣を確立するきっかけづくりを行う。

2 事業の概要

- (1) 期 日 ①令和元年9月28日(土)～9月29日(日) <1泊2日>
 ②令和元年10月26日(土)～10月27日(日) <1泊2日>
- (2) 会 場 国立三瓶青少年交流の家とその周辺
- (3) 協 力 桃太郎農園、島根県立三瓶自然館サヒメル、石見ワイナリー、三瓶こもれびの広場
 木工館、大田市山村留学センター三瓶こだま学園、福間牧場、山の駅さんべ等
- (4) 対 象 小学生とその家族
- (5) 参加者 ①64名 19家族(応募数:68名)
 ②57名 16家族(応募数:125名)
- (6) 日程・内容

【①9月28日(土)～9月29日(日)】

9月28日 (土)	1100	1130	1200	1300	1630	1710	1900	2000	2200	2230	9月29日 (日)	630	700	740	850	930	1100	1130
	受付	はじめの会	昼食	【選択活動①】三瓶で収穫体験をしよう! A.「桃太郎農園」に行こう! ブドウ採りに挑戦!その後、ぶどうのジャムを作ります♪(収穫体験&試食) B.「サツマイモ掘り」に行こう! サツマイモを掘って、秋の味覚を味わいます♪(収穫体験&試食)	夕飯のついで	夕食・入浴	【選択活動②】C.天竺巻で星をまるごと観察★ D.自由活動(カプラー等) 夜の三瓶でのんびり過ごそう♪	入浴・休憩	就寝準備	就寝		起床	朝の清掃	朝食	身辺整理	退所点検	石見ワイナリー見学(東の原を体験しよう!) 石見ワイナリーの見学と東の原で遊びましょう!(スナックゴルフ、ドッチビーなど)	おわりの会

【②10月26日(土)～10月27日(日)】

10月26日 (土)	1300	1330	1400	1630	1710	1900	2000	2200	2230	10月27日 (日)	630	700	740	850	930	1300	1330
	受付	はじめの会	【選択活動①】三瓶でッキンググッズを作ろう! A.「木工館」に行こう! ミニミニカッティングボード作りに挑戦! B.「山村留学センター」に行こう! 地元産の植物や木の葉を使った、ランチョンマット作りを体験!	夕飯のついで	夕食・入浴	【選択活動②】C.夜の牧場体験 夜の牛さんは、どんな様子だろう?夜の牧場を探検しに行こう! D.自由活動(カプラー等) 夜の三瓶でのんびり過ごそう♪	入浴・休憩	就寝準備	就寝		起床	朝の清掃	朝食	身辺整理	退所点検	山の駅さんべでピザづくりと西の原であそぼう! 2グループに分かれて、山の駅さんべでピザづくりと西の原であそびましょう!(スナックゴルフ、ドッチビーなど)	おわりの会

3 事業の特色

①プログラムデザインのポイント

地域の農園、牧場、研修施設、観光施設、体験施設等(以下、「事業所」という。)と当所との日頃からの交流や利用団体に提供する「地域連携プログラム」を通じた繋がりを活かし、参加者が事業所現地に訪れ、旬の体験活動ができるようプログラムデザインした。三瓶地域の魅力に気づく仕掛けとして、参加者が興味・関心のある体験を自ら選ぶことができるようにするために、選択制のプログラムを取り入れた。また、「さんべまるごと体験①」では、収穫体験と収穫したものを加工する行程の見学、「さんべまるごと体験②」では、クラフト体験と作製したものを実際に使用しての調理体験を行い、テーマや繋がりのある体験をすることで、より充実したプログラムを目指した。

②運営のポイント

地域資源の教育的活用に重点を置いた事業であるため、地域の方々が仕事や参加者に提供する体験等を通して伝えたい想いと、事業担当者の企画の想いを共有し、事業を計画していくために事業所に直接出向き打合せを行うことや試作品の作成を行った。また、地域の方々が実際に仕事をしている現場で参加者が共に活動を行うことで、地域の方々の人柄や事業所の雰囲気を知り、

より三瓶地域の魅力に気づいてもらう機会を設けた。

③ 広報のポイント

対象学年を小学校3～6年生とし、地域で体験した内容を日々の学校での学習にも応用ができるようにした。チラシ配布以外にも、HP や Facebook での案内やイベントの出店ブースにて告知を行い、県内外から多くの応募があった。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計 (%)

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	80	20	0	0
プログラム	80	20	0	0
職員の対応	80	20	0	0

(2) 参加者の声

- ・農家の方と話をしながら、「おもしろい」なども伝わってきて、良い体験となった。
- ・三瓶に行くので三瓶ならではの体験がしたい。そういった活動を提供してくれて嬉しい。

5 成果と課題

《成果》

- ・参加者は、三瓶周辺地域の事業所に出向き、地域の方々の魅力的な生き様や仕事ぶりを見聞することで、三瓶周辺地域の魅力に気づき、三瓶地域でしかできない直接体験を通じた学びの機会を得ることができた。
- ・「ブドウの種類がたくさんあって勉強になったのでよかった。」という子どもからの声や「糸鋸など子供自身が危ないことを理解し、自分で作成できて良かった。」という保護者からの声があり、子ども自身や保護者が子どもの成長を感じる機会があった。

《課題》

- ・テーマや繋がりを意識して企画を行ったが、「さんべまるごと体験②」では作成したものを実際に使い調理体験を行った参加者はほとんどいなかった。参加者がテーマを意識し、繋がりのある体験をするための声掛けや環境づくりが、職員側から必要であった。
- ・事業所の体制により多くの人数を受け入れようとすると、活動内容が制限されるということがあり、「多くの子ども達への体験活動の推進」と「事業所の魅力発信」のバランスをとりながら事業を展開することが重要である。



(担当：事業推進係 狩谷 順子)